

蛇^{だそく}足

(中国の古い話)

昔、中国のある国で、お祭りの後、使用人たちに、一つぼのお酒がふるまわれました。けれども、みんなで飲むには少なすぎます。

そこで、一人が言いました。「地面にへびの絵をかくて、一番早くかき上げた者が、このお酒を全部飲むことにしよう。」

みんな、いつせいかき始めました。まもなく、一人の男が一番にかき上げました。男はお酒のつぼを手に取ると、「わたしは、足だってかき加えられるぞ。」と言って、へびに足をかき始めました。

ところが、その足をかき終わらないうちに、もう一人の男がかき上げて、男の手からつぼをうばい取りました。「へびに足なんてない。足をかいたら、それはもうへびではないよ。」

そう言って、その男がお酒を飲みほしてしまいました。

この話から、よけいなつけ足しのことを、「蛇^{だそく}足」というようになりました。「蛇」は、へびのことです。

1

一番早くかき上げた者は、何を全部飲むことになっていましたか。



2

一番にかき上げた男は、その後どうしましたか。

ア すぐにお酒を飲んだ。

イ へびに足をかき始めた。

ウ もう一まいかいた。

3

男がお酒を飲めなかったのは、どうしてですか。

ア へびに足をかいて、へびではなくなったから。

イ 絵が下手だったから。

ウ お酒がきらいだったから。

4

よけいなつけ足しのことを、何といいますか。

